

**(二宮議員)**

近年、新型コロナウイルス感染症が蔓延していた中で、高齢者を中心に带状疱疹を発症する方が急増しています。

带状疱疹は、過去、子どものころに、水痘に罹患した人が、加齢や過労・ストレスなどによる免疫力の低下により、体内に潜伏している水痘・带状疱疹ウイルスの再活性化により、発症するものです。

日本人では、成人の90%以上の方が带状疱疹の原因となるウイルスが体内に潜んでいると言われ、その発症率が50歳代から高くなり、80歳までに3人に1人が発症するといわれており、治療が長引いたり、痛みが後遺症の症状として残ることもあるようです。

そこで、県民の健康寿命の延伸のために、带状疱疹の発症予防に対する施策について質問します。

はじめに、本県内の带状疱疹の患者数についてお聞かせください。

**【がん感染症疾病対策課長】**

国が3年に1回、医療機関を抽出して実施している患者調査によると、県内における直近の带状疱疹の患者数は、平成26年度は約2,000人、平成29年度と令和2年度は約3,000人と推計されています。



## (二宮議員)

県内では2,000人、3,000人とのことですが、私も昨年今頃、帯状疱疹に罹りまして、背中から痛みがありまして、何だこれは、と思いましたが、帯状疱疹でした。たくさんの方がそのような状況になっているのかと思いました。

帯状疱疹は、痛みが時によっては、大変に大きいと言われ、神経の損傷の度合いによっては、その後も痛みが続き、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などの合併症も引き起こすこともあると聞きました。

さらに、帯状疱疹に関しては、アメリカの感染症学会が、2020年3月から約1年間にわたり、200万人を対象に調査を行っています。その調査によると、新型コロナウイルス感染症に感染した人とそうでない人とでは、感染した人のほうが、帯状疱疹の発症リスクが約15%上がり、コロナ感染後の半年間は発症のリスクが高い状態であることが示されています。

コロナ禍での健康維持という観点での情報発信は大事なことであり、新型コロナウイルス感染症に感染した人をはじめ、県民のみなさまへの広報は重要だと認識しています。

また、この帯状疱疹の発症予防のために、現在、数種類のワクチンがあると聞いています。

そこで、帯状疱疹の症状や、ワクチン接種を含めた発症予防策、治療方法について、県民への周知はどのように行われているのかお聞かせください。

## 【がん感染症疾病対策課長】

委員ご指摘のとおり、帯状疱疹は、成人の9割以上が帯状疱疹の原因となるウイルスをもっており、加齢や免疫低下に伴い発症する可能性があります。

帯状疱疹は、発症後72時間以内に治療を開始することで症状の改善が促進され、重症化や後遺症の予防効果も認められていることから、該当するような症状があれば、早期に受診するよう、県のホームページ等で呼びかけてまいります。

また、発症原因やワクチン接種、治療方法についても、この中でわかりやすく情報発信してまいります。

## (二宮議員)

帯状疱疹の症状や治療方法等については、まだ十分に知られていないと思い

ますので、広く県民の皆様に情報提供していただくようお願いします。

さて、前述しましたが、帯状疱疹の発症率は50歳を境にして急激に上昇して、60歳代から80歳代でピークを迎えます。

高齢化が想像以上に進んでいる現在、シニアの世代が元気に生き生きと活動されていくことは重要なことであり、さらに、年を重ねてからの身体的な強い痛みは大変に苦痛であると思います。

また、発症後に合併症である帯状疱疹後神経痛が生じれば、数か月から数年にわたり痛みが続くことになり、生活の質が大きく毀損されます。

一方で、現在承認されている帯状疱疹ワクチンは2種類で、1回8,000円程度で済むものと、1回2万円程度の接種を2回要するものがあると聞いています。高いものでは4万円から5万円程度かかるということなので、たとえば年金で暮らす高齢者には相当の負担となります。

ワクチンで発症予防が可能になるならば、県民の健康を守るという観点から、帯状疱疹ワクチン接種の助成は検討すべきと考えます。

国内では先行事例で、すでに助成をしているところもあると聞いています。また、県内にも率先して自治体で取り組んでいる自治体もあるようです。本県で確認している情報をお聞かせください。

#### 【がん感染症疾病対策課長】

都道府県では、唯一東京都が令和5年度から帯状疱疹ワクチンを助成する区市町村に助成額の2分の1を補助するため、当初予算案に7億円余を計上しています。

また、県内の市町村では、太宰府市が、今年度から50歳以上の方を対象に、一人一回、1万円を上限に助成しており、朝倉市も来年度の当初予算案に助成費用を計上していると聞いています。

#### (二宮議員)

県内でも既に取り組んでいる、またはこれから取り組もうとしている自治体があるということです。もちろん各自治体の助成については、当該自治体の執行部と議会で助成制度の創設について決めていくわけですが、他の県内市町村においても取り組みが行われるよう、県から働きかけていくことも重要と考えます。

また、お答えにもありましたように、東京都では、来年度から、带状疱疹ワクチンの接種費を助成する区市町村への補助事業が実施されるとのことですが、県民の健康を守るという観点からすれば、県内市町村における助成の実施を働きかけるためにも、本県においても带状疱疹ワクチン接種の助成を行う市町村への補助を検討すべきと考えます。これらの点について、どのように考えているのかお聞かせください。

#### 【がん感染症疾病対策課長】

带状疱疹のワクチンにつきましては、現在、国の厚生科学審議会において、定期接種化について検討されており、導入年齢やワクチンの持続効果による費用対効果が課題とされているので、県としましては、国の動向を注視してまいります。

市町村に対しては、このような国の検討状況や先行する太宰府市や、朝倉市の取り組みにつきまして、予防接種に関する会議の中で情報提供してまいります。

#### （二宮議員）

自治体の大きさ、人口規模によっては、かなりの経費がかかること、また、一地域だけの課題ではないことから、国の制度として公費負担にできないものか、本県からその意思を国に対して発信すべきとも思います。本県の考えをお聞かせください。

#### 【がん感染症疾病対策課長】

国の制度として公費負担を行うためには、定期接種に位置付ける必要があります。

県としましても、先ほど述べました国が検討しているワクチンの持続効果などの課題について、早急に議論をまとめるよう要望してまいります。

#### （二宮議員）

「持続可能な社会保障制度の確立を図るための改革の推進に関する法律」第4条第3項には、「健康の維持増進、疾病の予防及び早期発見を積極的に促進すること」と、うたわれています。

病気になってから治療するのではなく、病気を未然に防ぐということが重要

です。また、超高齢社会においては、単に長生きするというだけでなく、健康で過ごせる期間をいかに長くできるかということが大切です。

そこで、最後に、所管している保健医療介護部の責任者である白石部長に、県民の健康を守るという観点から、带状疱疹に関する取り組みについての決意をお聞かせください。

#### 【保健医療介護部長】

带状疱疹は、強い痛みや顔面神経麻痺などの合併症を引き起こすこともあります。睡眠をはじめ、日常生活に支障ができ、生活の質の低下の原因になることもあります。

こうしたことから、県民の皆様に带状疱疹の基本的な知識をお持ちいただくことは、症状出現後の早期受診やワクチン接種の検討、判断につながり、県民の健康をまもるためには大変重要なことであり、課長も答弁で申し上げましたとおり、県民の皆様にわかりやすく周知を行ってまいります。

また、ワクチンの定期接種化に関しましては、現在、国の厚生科学審議会において検討課題となっているワクチンの持続効果などについて、議論が進むよう国に要望してまいります。